

株 主 各 位

東京都千代田区紀尾井町4番1号

新紀尾井町ビル2F

**株式会社レダックス**

取締役兼代表執行役社長 長倉 統己

## 第39回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社第39回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席くださいますようご通知申し上げます。

なお、当日ご出席いただけない場合は、インターネットまたは書面により議決権を行使することができますので、お手数ながら株主総会参考書類をご検討のうえ、『議決権行使のご案内』に記載のとおり、2026年6月23日(火曜日)午後6時までに議決権を行使していただきますようお願い申し上げます。

また、株主の皆様からは事前にご質問を受け付けたうえで、ご関心が高い事項については本総会でご説明します。本総会の様子につきましては、昨年同様インターネット配信によるライブ中継でご視聴いただけます。

敬 具

### 記

1. 日 時 2026年6月24日(水曜日) 午前10時30分(受付開始 午前10時)
2. 場 所 東京都千代田区紀尾井町4番1号  
新紀尾井町ビル2F 当社本社会議室
3. 会議の目的事項  
報 告 事 項
  1. 第39期(2025年4月1日から2026年3月31日まで)事業報告、連結計算書類の内容並びに会計監査人及び監査委員会の連結計算書類監査結果報告の件
  2. 第39期(2025年4月1日から2026年3月31日まで)計算書類の内容報告の件  
決 議 事 項
  - 第1号議案 剰余金処分の件
  - 第2号議案 取締役7名選任の件

<電子提供措置に関する事項>

本株主総会の招集に際しては、電子提供措置をとっており、インターネット上の以下の各ウェブサイトにて電子提供措置事項を掲載しております。

①当社ウェブサイト

<https://www.ledax.co.jp>



(上記のウェブサイトへアクセスいただき、「IR情報」「決算情報」を順に選択いただき、ご確認ください。)

②東京証券取引所ウェブサイト(東証上場会社情報サービス)

<https://www2.jpx.co.jp/tseHpFront/JJK010010Action.do?Show=Show>



(上記の東証ウェブサイトへアクセスいただき、「銘柄名(会社名)」に「レダックス」または「コード」に当社証券コード「7602」を入力・検索し、「基本情報」「縦覧書類/PR情報」を順に選択して、「縦覧書類」にある「株主総会招集通知/株主総会資料」欄よりご確認ください。)

<株主の皆様からの事前のご質問・ご意見受付のご案内>

株主の皆様からの事前のご質問・ご意見を下記メールにて受け付けております。ご関心が高い事項については本総会でご説明します。

①メールアドレス [ir\\_info@ledax.co.jp](mailto:ir_info@ledax.co.jp)

②受付期間 2026年6月9日(火)から2026年6月16日(火)まで

<インターネット配信のご案内>

- ・当日の株主総会の様子につきましては、インターネット配信によるライブ中継でご視聴いただけます。なお、議決権行使やご質問を承ることはできませんので、予めご了承ください。
- ・配信ウェブサイト (<https://www.ledax.co.jp/ir-web>)

◎当日ご出席の際は、お手数ながら議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。

◎議決権行使書において、議案に対する賛否の表示がない場合は、賛成の表示があったものとしてお取り扱いいたします。

◎代理人による出席の場合は、代理権を証明する書面を議決権行使書用紙とともに会場受付にご提出ください。なお、代理人の資格は、当社の議決権を有する他の株主様1名に限ることとさせていただきます。

◎電子提供措置事項に修正が生じた場合は、郵送または前記インターネット上の各ウェブサイトにおいて、その旨、修正前及び修正後の事項を掲載いたします。

◎本株主総会においては、書面交付請求の有無にかかわらず、一律に電子提供措置事項を記載した書面をお送りいたします。

なお、電子提供措置事項のうち、次の事項につきましては、法令及び当社定款第15条第2項の規定に基づき、お送りする書面には記載しておりません。

- ①事業報告のうち「業務の適正を確保するための体制」
- ②連結計算書類のうち「連結株主資本等変動計算書」「連結注記表」
- ③計算書類のうち「株主資本等変動計算書」「個別注記表」

したがって、当該書面に記載している事業報告、連結計算書類及び計算書類は、会計監査人が会計監査を、監査委員会が監査報告を作成するに際して監査をした対象書類の一部であります。

以 上

## 議決権行使のご案内

今回の定時株主総会で付議されております議案につきまして、以下のいずれかの方法で議決権の行使を賜りますようお願い申し上げます。

書面による場合



書面による議決権行使は、議決権行使書用紙に賛否をご表示いただき、**2026年6月23日（火曜日）午後6時**までに当社に到着するよう折り返しご送付ください。

※ご送付いただきます議決権行使書用紙は料金受取人払いのハガキとなっており、通常の郵便物に比べ郵便局での処理に時間を要しますので、誠に恐縮ではございますが、お早めにご投函くださいますようお願い申し上げます。

### ■議決権行使書用紙のご記入方法のご案内

議決権行使書 株主番号 ○○○○○○ 議決権の数 XX 株  
○ ○ ○ ○ 印中  
××××年 ×月×日  
1. 議決権の数  
2. 議決権の行使  
3. 議決権の行使  
4. 議決権の行使  
スマートフォン用  
議決権行使  
ウェブサイトに  
QRコード  
【見本】  
○ ○ ○ ○ ○ ○

こちらに、各議案の賛否をご記入ください。

#### 第1号議案

▶ 賛成の場合 : 「賛」の欄に○印

▶ 反対する場合 : 「否」の欄に○印

#### 第2号議案

▶ 全員賛成の場合 : 「賛」の欄に○印

▶ 全員反対の場合 : 「否」の欄に○印

▶ 一部の候補者を

反対される場合 : 「賛」の欄に○印の上、反対される候補者の番号をご記入ください。

インターネット  
による場合



スマートフォン等により議決権行使書用紙のQRコードを読み取るか、当社の指定する議決権行使ウェブサイト (<https://www.web54.net>) にアクセスし、画面の案内に従って議決権をご行使ください。

行使期限 | 2026年6月23日（火曜日）午後6時

詳細は次頁をご覧ください

### ■重複行使のお取扱いについて

書面及び電磁的方法（インターネット）によって二重に議決権を行使された場合は、電磁的方法によるものを有効な議決権行使として取扱わせていただきます。

また、電磁的方法によって、複数回又はパソコンやスマートフォン等で重複して議決権を行使された場合は、最後に行われたものを有効な議決権行使として取扱わせていただきます。



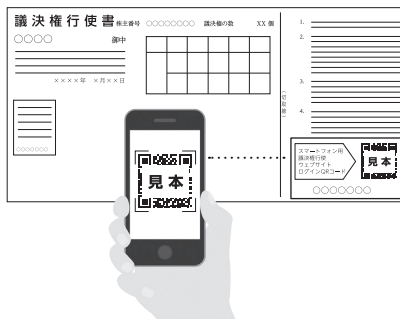
# インターネットによる議決権行使のご案内

## QRコードを読み取る方法 「スマート行使」

議決権行使コード及びパスワードを入力することなく  
議決権行使ウェブサイトへログインすることが出来ます。

### 1 議決権行使書用紙右下に記載の QRコードを読み取ってください。

※「QRコード」は株式会社デンソーウェブの  
登録商標です。

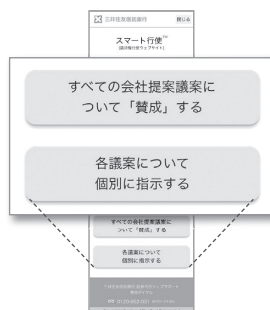


### 2 以降は画面の案内に従って賛否を ご入力ください。

「スマート行使」での議決権行使は1回  
に限り可能です。

議決権行使後に行使内容を変更する場合は、お手数  
ですがPC向けサイトへアクセスし、議決権行使書  
用紙に記載の「議決権行使コード」・「パスワード」  
を入力してログイン、再度議決権行使をお願いいた  
します。

※QRコードを再度読み取っていただくと、PC向け  
サイトへ遷移出来ます。



書面及び電磁的方法（インターネット）によって二重に議決権を行使された場合は、電磁的方法によるものを有効な議決権行使として取扱わせていただきます。

また、電磁的方法によって、複数回又はパソコンやスマートフォン等で重複して議決権を行使された場合は、最後に行われたものを有効な議決権行使として取扱わせていただきます。

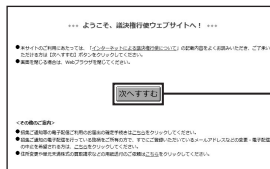
## インターネットによる議決権行使に関するお問い合わせ

三井住友信託銀行 証券代行ウェブサポート 専用ダイヤル  
電話番号：0120-652-031（フリーダイヤル）  
（受付時間 午前9時～午後9時）

# 議決権行使コード・パスワードを 入力する方法

議決権行使  
ウェブサイト <https://www.web54.net>

- 1** 議決権行使ウェブサイト  
にアクセスしてください。



「次へすすむ」を  
クリック

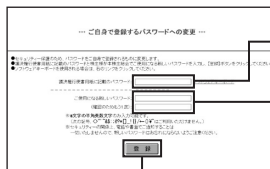
- 2** 議決権行使書用紙に記載  
された「議決権行使コード」  
をご入力ください。



「議決権行使コード」  
を入力

「ログイン」を  
クリック

- 3** 議決権行使書用紙に記載  
された「パスワード」をご入  
力ください。



「初期パスワード」  
を入力

実際にご使用になる  
新しいパスワードを  
設定してください

- 4** 以降は画面の案内に従って  
賛否をご入力ください。

「登録」をクリック

パソコンやスマートフォン等のインターネットのご利用環境等によっては、議決権行使ウェブサイトがご利用できない場合があります。

# 事業報告

( 自 2025年4月1日  
至 2026年3月31日 )

## 1. 企業集団の現況に関する事項

### (1) 事業の経過およびその成果

当連結会計年度（2025年4月1日から2026年3月31日）におけるわが国の経済は、緩やかに回復しているものの、中東情勢の影響や金融資本市場の変動、米国の通商政策をめぐる動向などに注意が必要な状況です。雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな回復を支えることが期待されますが、一部に足踏みが残るものの、全体としては緩やかに改善しております。ただし、物価上昇の継続による消費者マインドの下振れ等が個人消費に及ぼす影響や、米国の通商政策などの動向が、わが国の景気を下押しするリスクとなっております。

当社グループが属する自動車業界におきましては、新車登録台数（軽自動車含む）は、約378万台（乗用のみ、貨物・バス等除く）となり、前期比2.2%減少となりました。中古車登録台数（軽自動車含む）は、約546万台（乗用のみ、貨物・バス等除く）となり、前期比で0.4%の増加となりました（出典：一般社団法人日本自動車販売協会連合会、一般社団法人全国軽自動車協会連合会）。

このような環境の中で当社は、親会社である株式会社レダグループホールディングスのグループ会社として、更なる事業セグメントの無限化・多様化・スピード化による成長戦略を明確にすることを目的としております。そのため、投資事業、金融事業、不動産事業、M&Aコンサルタント事業を積極的に推進しております。

当社は、将来の飛躍的な成長に向けた基盤構築として、以下の2つの戦略的プロジェクトの準備を強力に推進しております。

第一に、グローバル・フィンテック戦略の具体化として、2025年12月19日付で、当社は、米国NASDAQ上場の金融大手Freedom Holding Corp.（以下「FRHC社」）との間で、日本国内における銀行業参入及びFinTech事業展開のための合弁事業に向けた準備会社の設立に向けた基本合意（MOU）を締結し、2026年1月30日付で準備会社を設立いたしました。また、2026年3月31日付で、FRHC社との合弁契約を締結しており、2026年4月30日付で株式総数引受契約を締結いたしました。

今後、同社の持つ強固な資本基盤とグローバルな金融ネットワークを当社の事業に融合させ、新たな収益モデルの確立を目指してまいります。

第二に、成長領域であるAIインフラ市場への参入と物流機能の最大活用として、当社は、米国NASDAQ上場企業であるSuperX AI Technology Limited（以下「SuperX社」）のグループ企業との間で、2026年2月12日付で「販売エージェン

ト業務」及び「物流業務」に関する業務提携契約を締結し、「認定物流パートナー」に指定されました。これにより、同社製AIサーバー等の日本国内販売におけるエージェント業務を担うとともに、三重県津市の供給センターから出荷される製品の物流業務を当社グループが受託いたします。成長著しいAIインフラ需要を確実に取り込むとともに、既存の物流アセットの稼働率向上と収益拡大を図ってまいります。

当社グループのセグメント別の業績は、次のとおりであります。

### 【自動車流通事業】

「自動車流通事業」において株式会社アガスタ、株式会社タカトク、新興自動車株式会社がいずれも営業利益での黒字を確保いたしております。

株式会社カーチスにおきましては、在庫車両構成の一新と在庫回転率の向上による粗利率の向上を最優先課題として構造改革に取り組んでおり、組織・運営体制の抜本的な見直しと在庫戦略の刷新により収益性は劇的に改善しております。

この結果、自動車流通事業全体における当連結会計年度の営業損失は前期比で112百万円縮小し、収益化に向けて確実な成果が表れております。

今後も「顧客ファースト」のスローガンを経営の中核に据え、お客様視点に立った「買取直販」を積極的に推進してまいります。さらに、多様化するお客様のニーズに対応するため、保証やメンテナンスパッケージなどの付帯サービスを充実させることによる収益基盤の向上を図るとともに、車検や保険など納車後のアフターサービスを通じて、「生涯顧客」としてのお客様との継続的な取引を強化していきます。また、カーチス倶楽部会員を対象としたサービスの拡充にも努め、取引頻度の向上による活性化を図ってまいります。

新規出店につきましては、販売センターを中心とした候補地の情報収集を積極的に進めております。しかしながら、不動産相場や建設費の高騰を考慮し、慎重な判断を行っております。既存店舗のスクラップアンドビルドやM&A等も選択肢として検討し、グループ全体の収益力向上を目指します。

海外関連では、株式会社アガスタにおいて、アジア・オセアニア・アフリカ諸国との輸出入取引が順調に推移しております。ウガンダに開設したオフィスやパキスタンのコールセンターと連携し、周辺諸国への事業展開を進めております。また、株式会社カーチスカピタルマネージメントにおいては、海外での自動車の販売、製造ならびに現地における市場開発のための企画及びコンサルティング業を行うことを目的として活動しており、さらに国内においてもギフト及び生活関連用品の販売・輸出入事業を開始し、新たな取引先の開拓による販路の拡大を進めております。

上記の結果、自動車流通事業の売上高は19,715百万円（前年同期比0.8%減）、セグメント損失は116百万円（前期はセグメント損失228百万円）となりました。

#### 【リースバック関連事業】

「リースバック関連事業」においては、株式会社カーチスロジテックは、リース及びリースバック事業を主軸に、商用車の買取・販売、運送会社のM&Aアドバイザー、金融業を手掛ける総合物流商社を目指しております。金融機関や大手物流業者との連携、及び「カーチス倶楽部」を通じた運送事業者への認知度向上を図り、運送会社の資金繰り支援や物流事業の安定化を担う「物流管理プラットフォーム」の構築を通じて、物流業界の発展に寄与する方針です。

一方で、グループ全体の事業ポートフォリオ最適化を図る観点から、株式会社カーチスロジテックの事業運営を当社からラインロジスティクス株式会社へ委譲し、当社は強みである金融・投資の知見を活かした専門的な支援に特化します。これにより、次世代の成長戦略の柱である金融関連事業へ経営リソースを集中投下してまいります。

上記の結果、リースバック関連事業の売上高は131百万円（前期比22.5%減）、セグメント損失は5百万円（前期はセグメント利益28百万円）となりました。

販売費及び一般管理費につきましては、新興自動車株式会社の買収による増加があるものの、各科目の見直しや業務改善による効率的な経費削減を継続的に実施しております。同時に売上拡大に向けた人員採用や、知名度向上及び来店促進のための広告費投入といった戦略的投資を積極的に行っております。

当連結会計年度の経営成績は売上高19,846百万円（前期比0.9%減）、営業損失121百万円（前期は営業損失199百万円）、経常損失は114百万円（前期は経常損失143百万円）となりましたが、一連の構造改革の結果、当第4四半期連結会計期間（2026年1月～3月）における営業利益は68百万円と大幅な黒字転換を果たしております。

さらに、親会社株主に帰属する当期純損益につきましては、仙台不動産の売却に伴う固定資産売却益244百万円や投資有価証券売却益を計上した結果、113百万円の利益（前期は親会社株主に帰属する当期純損失187百万円）を達成いたしました。

当社は、この収益基盤の回復を背景に、2026年4月には上場維持基準（スタンダード市場）への適合を果たし、東京証券取引所における監理銘柄（確認中）の指定解除を実現しております。

## (2) 部門別売上高

部 門 別		売上高（千円）	構 成 率
商 品	国 内 販 売	15,908,555	80.2%
	輸 出	3,901,191	19.7%
そ の 他		37,137	0.1%
合 計		19,846,885	100.0%

## (3) 対処すべき課題

当社グループは、さらなる成長を実現するため、次の課題に重点的に取り組んでまいります。

### ① 顧客ファーストの追求

当社グループは『顧客ファースト』のスローガンを掲げております。お客様との関係を深め、継続的な取引を行うために、多様化するお客様のニーズへ対応すべく、車検や保険に加えローン・リース・レンタカー・メンテナンスパッケージなどの付帯サービスの開発を行い、価値の高いサービスを提供することで収益の向上を図ってまいります。

### ② 店舗数の拡大

「買取直販」のビジネスモデル推進のため、新規出店やM&Aなどによる積極的な店舗数の拡大を図ることによって、売上の向上に取り組んでまいります。

### ③ カーチス倶楽部会員や他社と連携強化

カーチス倶楽部会員への独自のサービス展開や、他社との在庫共有などにより、商用車も含めたB to B取引の拡大に取り組んでまいります。

### ④ 海外事業戦略の拡大

当社子会社が運営するグローバル・インターネットプラットフォーム「PicknBuy24.com」との在庫連携や輸出向け車輛の販売台数拡大に取り組んでまいります。

### ⑤ コーポレート・ガバナンス体制の強化

当社は、経営の最重要課題の一つとして、コーポレート・ガバナンス体制の強化に取り組んでおり、コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方とその枠組み、運営に係る方針を明確にしております。

体制強化の一環として、当社は経営監督機能と業務執行機能を分離させる指名委員会等設置会社を採用しております。また、当社グループとして、各社の意思決定から店舗のオペレーションに至るまで、コンプライアンス部および内部監査部にて、各種法令・規程等の遵守状況について指導・監査を実施しております。

さらに、取締役兼代表執行役社長直轄の内部監査部と、社内取締役が委員長を務め過半数を社外取締役で構成する監査委員会が連携することによって、より高いレベルでのコーポレート・ガバナンスが実現できる体制を構築してまいります。

#### (4) 設備投資等の状況

当連結会計年度における設備投資の総額は、合計12,390千円であり、重要な設備投資の状況は次のとおりであります。

ソフトウェアの開発費用

11,590千円

#### (5) 資金調達の状況

該当事項はありません。

#### (6) 財産および損益の状況の推移

##### ① 企業集団の財産および損益の状況の推移

区 分	第 36 期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	第 37 期 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	第 38 期 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	第 39 期 (当連結会計年度) (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
売上高(千円)	19,058,833	19,072,456	20,034,349	19,846,885
親会社株主に帰属する当期純利益または親会社株主に帰属する当期純損失(△)(千円)	△514,867	73,102	△187,403	113,910
1株当たり当期純利益または1株当たり当期純損失(△)	△24円88銭	3円53銭	△9円4銭	5円50銭
純資産(千円)	4,911,553	5,034,039	4,858,033	4,989,075
総資産(千円)	6,732,516	7,257,647	7,072,604	7,163,862

(注) 1株当たり当期純利益及び1株当たり当期純損失は期中平均発行済株式数に基づき算出しております。

##### ② 会社の財産および損益の状況の推移

区 分	第 36 期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	第 37 期 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	第 38 期 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	第 39 期 (当事業年度) (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
売上高(千円)	440,615	435,594	427,732	426,752
当期純利益または当期純損失(△)(千円)	△22,782	△10,100	△33,262	165,074
1株当たり当期純利益または1株当たり当期純損失(△)	△1円10銭	△49銭	△1円60銭	7円96銭
純資産(千円)	4,139,200	4,135,577	4,081,478	4,246,458
総資産(千円)	4,771,552	4,766,349	4,905,708	5,248,496

(注) 1株当たり当期純利益及び1株当たり当期純損失は期中平均発行済株式数に基づき算出しております。

## (7) 重要な親会社および子会社の状況

### ① 親会社の状況

当社の親会社は株式会社レダグループホールディングスであります。同社は、当社の議決権比率54.89%を保有しております。

### ② 親会社等との間の取引に関する事項

#### イ. 取引に当たって当社の利益を害さないように留意した事項

当社は親会社等のグループ会社等と取引を行う場合には、一般的な取引条件を参考に適正な条件で行うことを基本方針とし、取引内容および取引の妥当性について、少数株主の利益に相反しないかどうか慎重に検討して実施しております。

#### ロ. 当社の利益を害さないかどうかについての取締役会の判断およびその理由

親会社等の取引は、当社社内規程に基づき、親会社等から独立して最終的な意思決定を行っており、当社の利益を害することはないと判断しております。

#### ハ. 取締役会の判断が社外取締役の意見と異なる場合の当該意見

該当事項はありません。

### ③ 重要な子会社の状況

会社名	資本金	当社の議決権比率	決算日	主要な事業内容
株式会社カーチス	100,000千円	100.0%	3月31日	自動車流通事業
株式会社タクトク	93,400千円	94.9%	3月31日	自動車用品及び部品の卸売販売
株式会社アガスタ	100,000千円	66.7%	3月31日	中古車輸出事業
新興自動車株式会社	100,000千円	100.0%	3月31日	自動車整備

(注) 2026年1月30日に第三者割当による新株式発行により、株式会社カーチスロジテックを持分法適用関連会社といたしました。

### ④ 当事業年度の末日における特定完全子会社の状況は、次のとおりであります。

特定完全子会社の名称	株式会社カーチス
特定完全子会社の住所	東京都千代田区紀尾井町4番1号 新紀尾井町ビル2F
当社及び当社の完全子会社における 特定完全子会社の株式の帳簿価額	1,619,244千円
当社の総資産額	5,248,496千円

(8) 主要な事業内容(2026年3月31日現在)

自動車流通事業…中古車の買取・販売・輸出および新車の販売等  
リースバック関連事業…運送事業者等に対するリースバック事業等

連結子会社の数

連結子会社の数 4社

株式会社カーチス、株式会社タカトク、株式会社アガスタ、新興自動車株式会社

持分法適用会社の数

持分法適用会社の数 2社

株式会社カーチスロジテック、青島新馳汽車有限公司

(9) 主要な営業所(2026年3月31日現在)

① 当社

本社：東京都千代田区紀尾井町4番1号

② 主要な子会社

株式会社カーチス

本	社	東京都千代田区紀尾井町4番1号	
店	舗	カーチスメガ仙台販売センター (宮城県仙台市)	
		カーチス千葉中央販売センター (千葉県千葉市)	
		カーチス枚方販売センター (大阪府枚方市)	
		カーチス南港販売センター (大阪府大阪市)	
		カーチス福岡西 (福岡県福岡市)	
		ガチアウトレットカーチス筑紫野 (福岡県筑紫野市)	
		カーチス小山買取センター (栃木県小山市)	
		カーチス多摩買取センター (東京都多摩市)	
		カーチス川崎買取センター (神奈川県川崎市)	
		カーチス神戸西買取センター (兵庫県神戸市)	
		カーチス広島買取センター (広島県広島市)	
		他15店舗	

## (10) 従業員の状況(2026年3月31日現在)

### ①企業集団の従業員の状況

セグメントの名称	従業員数	前連結会計年度末比増減
自動車流通事業	176名	5名増
リースバック関連事業	3名	1名減
全社（共通）	19名	1名減
合計	198名	3名増

(注1) 従業員数は就業人員数（当社グループからグループ外部への出向者を除く）であります。

(注2) 全社（共通）として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない本社部門に所属している従業員数であります。

### ②当社の従業員の状況

従業員数	前事業年度末比増減	平均年齢	平均勤続年数
19名	1名減	47.1歳	9.7年

(注) 従業員数は就業人員数であります。

## (11) 主要な借入先(2026年3月31日現在)

借入先	借入残高
株式会社東京スター銀行	500百万円
千葉信用金庫	128百万円

## 2. 会社の株式に関する事項(2026年3月31日現在)

- (1) 発行可能株式総数 50,000,000株
- (2) 発行済株式の総数 24,106,009株 (自己株式 3,377,213株を含む)
- (3) 株主数 10,799名
- (4) 大株主 (上位10名)

株主名	持株数	持株比率
	千株	%
株式会社レダグループホールディングス	11,297	54.50
EMMINENCE, LLC	869	4.19
加畑 雅之	834	4.02
レダックス取引先持株会	662	3.19
山田 祥美	253	1.22
モルガン・スタンレーMUF G証券株式会社	232	1.22
守田 稔	200	0.96
レダックス従業員持株会	171	0.82
株式会社SBI証券	132	0.63
BNYM SA/NV FOR BNYM FOR BNY GCM CLIENT A CCOUNTS M LSCB RD	123	0.59

(注1) 当社は、自己株式を3,377,213株保有しておりますが、上記の大株主からは除外しております。

(注2) 持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

### (5) その他株式に関する重要な事項

自己株式の取得、処分等および保有

#### ① 取得株式

単元未満株式の取得により、自己株式は630株増加しております。

#### ② 処分株式

該当なし

#### ③ 決算期末における保有株式

普通株式

3,377,213株

## 3. 会社の新株予約権等に関する事項

- (1) 当事業年度の末日に当社役員が保有している新株予約権の状況  
該当事項はありません。
- (2) 当事業年度中に使用人等に対し交付した新株予約権の状況  
該当事項はありません。
- (3) その他新株予約権等に関する重要な事項  
該当事項はありません。

#### 4. 会社役員に関する事項

##### (1) 取締役および執行役の氏名等(2026年3月31日現在)

###### ① 取締役

会社における地位	氏名	担当	重要な兼職の状況
取締役	加畑雅之	代表執行役員 報酬委員会 指名委員	株式会社カーチス取締役会長 株式会社アガスタ取締役会長 新興自動車株式会社取締役会長 株式会社カーチスロジテック取締役 株式会社Freedom Japan取締役 株式会社レダグループホールディングス代表取締役会長兼社長 株式会社レダ代表取締役会長兼社長 株式会社創広取締役会長
取締役	長倉統己	代表執行役員 社長	株式会社アガスタ代表取締役社長 株式会社カーチス取締役 新興自動車株式会社取締役 株式会社タカトク取締役 株式会社カーチスロジテック監査役 株式会社Freedom Japan監査役 株式会社レダグループホールディングス取締役
取締役	渡邊雄太	専務執行役員	株式会社カーチス代表取締役社長 株式会社アガスタ取締役 株式会社タカトク取締役 株式会社カーチスロジテック取締役 株式会社Freedom Japan代表取締役
取締役	平野忠邦	監査委員長	—
取締役	内田輝紀	報酬委員長 指名委員長 監査委員	渥美坂井法律事務所・外国法共同事業弁護士 株式会社クロス・マーケティンググループ社外取締役(監査等委員)
取締役	笠井学	報酬委員 指名委員 監査委員	株式会社カーチス取締役

(注1) 取締役内田輝紀、笠井学の両氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。

(注2) 当社は、東京証券取引所に対して、取締役内田輝紀、笠井学の両氏を独立役員とする独立役員届出書を提出しております。

(注3) 当社は、経営企画室において監査委員の職務を補助しているため、常勤の監査委員を選定しておりません。

(注4) 当事業年度中の取締役の就任は次のとおりであります。

2025年6月26日開催の定時株主総会において、取締役全員が任期満了につき退任し、加畑雅之、長倉統己、渡邊雄太、平野忠邦、内田輝紀、笠井学の各氏が取締役就任しております。

## ② 執行役

会社における地位	氏名	担当および重要な兼職の状況
代表執行役員 会	加 畑 雅 之	当社グループ全体および各執行役の統轄 株式会社カーチス取締役会長 株式会社アガスタ取締役会長 新興自動車株式会社取締役会長 株式会社カーチスロジテック取締役 株式会社Freedom Japan取締役 株式会社レダグループホールディングス代表取締役会長兼社長 株式会社レダ代表取締役会長兼社長 株式会社創広取締役会長
代表執行役員 社	長 倉 統 己	当社グループ全体の運営・管理および各執行役の統轄 株式会社アガスタ代表取締役社長 株式会社カーチス取締役 新興自動車株式会社取締役 株式会社タカトク取締役 株式会社カーチスロジテック監査役 株式会社Freedom Japan監査役 株式会社レダグループホールディングス取締役
専務執行役員	渡 邊 雄 太	株式会社カーチス代表取締役社長 株式会社アガスタ取締役 株式会社タカトク取締役 株式会社カーチスロジテック取締役 株式会社Freedom Japan代表取締役
執行役員	大 河 内 良 平	株式会社アガスタ取締役

### (2) 責任限定契約の内容の概要

当社と社外取締役内田輝紀、笠井学の各氏は、当社定款および会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項に定める損害賠償責任を限定する契約を締結しております。その概要は、取締役（業務執行取締役等であるものを除く。）の損害賠償責任の限度額を、会社法第425条第1項第1号および第2号に定める金額の合計額とするものです。

### (3) 役員等賠償責任保険契約の内容の概要等

当社は、保険会社との間で、当社の取締役、執行役員及び当社子会社の取締役、監査役（いずれも当事業年度中に在任していた者を含む。）を被保険者とする、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を締結しております。保険料については、当社が全額負担しております。当該保険契約の内容は、被保険者である対象役員が、その職務の執行に関して責任を負うこと又は当該責任の追及に係る請求を受けることによって生じることのある損害を当該保険契約により保険会社が補填するものであり、1年毎に契約更新しております。

なお、当該保険契約では、当社が当該役員に対して損害賠償責任を追及する場合は保険契約の免責事項としており、また、補填する額について限度額を設けることにより、当該役員の職務の執行の適正性が損なわれないようにするための措置を講じております。

#### (4) 取締役及び執行役の報酬等の額

区 分	報酬等の総額	報酬等の種類別の総額			対象となる 役員の数
		基本報酬	業績連動報酬	非金銭 報酬等	
取締役 (うち社外取締役)	44,310千円 (7,860千円)	44,310千円 (7,860千円)	— (—)	—	7名 (3名)
執行役	4,326千円	4,326千円	—	—	2名
合計 (うち社外取締役)	48,636千円 (7,860千円)	48,636千円 (7,860千円)	— (—)	—	9名 (3名)

(注1) 期末日現在の取締役は6名（うち社外取締役は2名）、執行役は4名であります。

(注2) 期末日現在の取締役兼執行役は3名、取締役を兼務しない執行役は1名であります。

(注3) 取締役兼執行役の報酬については、取締役の欄に含み、執行役の欄から除いております。

(注4) 当事業年度において、社外役員が当社の子会社から受けた役員報酬等はありません。

#### (5) 取締役および執行役の報酬等の額の決定に関する方針

##### ① 方針の決定方法

当社は、会社法第409条第1項に基づき、取締役1名及び独立社外取締役2名の計3名からなる報酬委員会が取締役および執行役の個人別の報酬の内容に係る決定に関する方針を定めております。

##### ② 方針の概要

1. 取締役は、主な職務が当社グループ全体の重要な意思決定および業務執行の監督であることから、優秀かつ幅広い見識のある人材を確保するための報酬体系とすることを基本方針としております。取締役の報酬の構成は、基本報酬及びストックオプション等とし、その水準と構成比については、基本方針に則り設定いたします。

2. 執行役は、当社グループ全体の業務執行を担うことから、会社業績の向上を図るため優秀な人材を確保するとともに、業績や株価との連動を重視した報酬体系とすることを基本方針としております。執行役の報酬の構成は、基本報酬、賞与（業績連動報酬）及びストックオプション等とし、その水準と構成比については、基本方針に則り設定いたします。

なお、賞与（業績連動報酬）は執行役の任期1年間の成果に報いる趣旨で事業年度毎に1回支給する金銭報酬で、当社グループ全体の営業活動の成果である「連結経常利益」の達成度に応じて金額を算出いたします。

3. 執行役が使用人を兼ねているときは、使用人部分を含めた報酬等の総額を決定するものとし、取締役を兼任する執行役については、使用人部分への報酬等の振分けはできないものとしております。

4. 個人別の報酬等の内容の決定については、公平性・妥当性を考慮し、以下の事項等を勘案した上で、合理的な範囲内で報酬等を定めるものとしております。

<就任時>

- ・ 当社の前事業年度又は直近の業績および財務状況
- ・ 当社の属する業界全体の業績・景況感
- ・ 当社経営陣に対する報酬等の支給実績
- ・ 対象者の能力・知識・スキル・経験および執行役の場合は委任される職責

<変更時>

- ・ 対象者の報酬等を従前より増額又は減額する場合においては、その理由および根拠を明確にした上で、合理的な範囲内で報酬等の内容を決定するものとしております。
- ③ 個人別の報酬等の内容が方針に沿うものであると報酬委員会が判断した理由
- 当社は、2025年6月26日開催の報酬委員会において取締役および執行役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針を定めており、当該方針に沿うものであることから、相当なものであると判断しております。

(6) 社外役員に関する事項

① 他の法人等の重要な兼職の状況および当社と当該他の法人等との関係

地位	氏名	兼職先法人名	兼職の内容	兼職先と当社との関係
取締役	内田輝紀	渥美坂井法律事務所・外国法共同事業株式会社クロス・マーケティンググループ	弁護士 社外取締役 (監査等委員)	当社と渥美坂井法律事務所・外国法共同事業、株式会社クロス・マーケティンググループとの間に重要な取引その他の関係はありません。
	笠井学	株式会社カーチス	取締役	株式会社カーチスは当社の完全子会社となります。

② 当事業年度における主な活動状況

地 位	氏 名	取締役会 出席状況	監査委員会 出席状況	出席状況、発言状況及び社外取締役に期待される役割に関して行った職務の概要
取締役 監査委員	内 田 輝 紀	17回中17回	12回中12回	当事業年度に開催された取締役会17回の全てに、また、監査委員会12回の全てに出席いたしました。金融・証券における行政経験および弁護士としての高度な専門知識と高い見識から適宜発言を行っております。また、取締役会において、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための発言を行っており、監査委員会において、適宜必要な発言を行っております。
	笠 井 学	17回中16回	10回中9回	当事業年度に開催された取締役会17回のうち16回に、また、2025年6月26日に就任以降開催された監査委員会10回のうち9回に出席いたしました。事業会社における営業・販売分野での豊富な経験や営業担当取締役として培われた高い見識から適宜発言を行っております。また、取締役会において、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための発言を行っており、監査委員会において、適宜必要な発言を行っております。

(注) 書面決議による取締役会の回数は除いております。

## 5. 会計監査人の状況

### (1) 会計監査人の名称

海南監査法人

### (2) 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額

#### ① 公認会計士法第2条第1項の業務にかかる報酬等の額

海南監査法人 29,000千円

#### ② 当社および当社の子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計

29,000千円

(注1) 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できないため、上記①の金額は合算額で記載しております。

(注2) 当社監査委員会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、会計監査人の監査計画、その遂行状況および報酬の見積額の妥当性などを検討した結果、会計監査人の報酬等につき、会社法第399条第1項の同意を行っております。

(注3) 上記のほか、当事業年度において、前事業年度にかかる追加報酬として6,000千円を支払っております。

### (3) 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

当社監査委員会は、会計監査人につき会社法第340条第1項各号に定める解任事由に該当すると判断した場合には、会計監査人の解任又は不再任を検討いたします。

# 連結貸借対照表

(2026年3月31日現在)

(単位：千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
<b>流 動 資 産</b>	<b>5,967,223</b>	<b>流 動 負 債</b>	<b>1,892,373</b>
現金及び預金	2,149,258	買掛金	307,969
売掛金	1,233,352	短期借入金	630,562
商品	1,841,829	未払金	184,591
貯蔵品	1,167	未払法人税等	67,357
その他	747,469	契約負債	371,737
貸倒引当金	△5,854	その他	330,154
<b>固 定 資 産</b>	<b>1,196,639</b>	<b>固 定 負 債</b>	<b>282,413</b>
<b>有 形 固 定 資 産</b>	<b>595,515</b>	長期借入金	712
建物及び構築物	276,420	預り保証金	9,474
土地	238,500	リース債務	19,580
リース資産	37,557	繰延税金負債	48,338
建設仮勘定	390	資産除去債務	204,307
その他	42,647	<b>負 債 合 計</b>	<b>2,174,787</b>
<b>無 形 固 定 資 産</b>	<b>138,804</b>	<b>純 資 産 の 部</b>	
ソフトウェア	113,042	<b>株 主 資 本</b>	<b>4,709,433</b>
ソフトウェア仮勘定	23,670	資本金	2,820,732
その他	2,091	資本剰余金	851,334
<b>投資その他の資産</b>	<b>462,319</b>	利益剰余金	2,114,063
投資有価証券	101,025	自己株式	△1,076,696
差入敷金保証金	348,821	<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>15,348</b>
破産更生債権等	16,391	為替換算調整勘定	15,348
その他	22,447	<b>非 支 配 株 主 持 分</b>	<b>264,293</b>
貸倒引当金	△26,366	<b>純 資 産 合 計</b>	<b>4,989,075</b>
<b>資 産 合 計</b>	<b>7,163,862</b>	<b>負 債 ・ 純 資 産 合 計</b>	<b>7,163,862</b>

# 連結損益計算書

( 自 2025年4月1日  
至 2026年3月31日 )

(単位：千円)

科 目	金	額
売 上 高		19,846,885
売 上 原 価		16,848,015
売 上 総 利 益		2,998,870
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		3,120,301
営 業 損 失		121,430
営 業 外 収 益		
受 取 利 息	5,615	
受 取 配 当 金	845	
有 価 証 券 売 却 益	37,800	
受 取 保 証 料	1,519	
為 替 差 益	6,911	
受 取 保 険 金	358	
雑 収 入	46,894	99,943
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	7,910	
支 払 保 証 料	2,237	
持 分 法 に よ る 投 資 損 失	21,004	
雑 損 失	61,400	92,553
経 常 損 失		114,040
特 別 利 益		
固 定 資 産 売 却 益	244,659	
投 資 有 価 証 券 売 却 益	42,221	
持 分 変 動 利 益	37,980	324,860
特 別 損 失		
減 損 損 失	3,826	3,826
税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益		206,994
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税	64,695	
法 人 税 等 調 整 額	13,596	78,291
当 期 純 利 益		128,702
非 支 配 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益		14,792
親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益		113,910

# 貸借対照表

(2026年3月31日現在)

(単位：千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
<b>流 動 資 産</b>	<b>2,557,716</b>	<b>流 動 負 債</b>	<b>857,198</b>
現 金 及 び 預 金	918,982	短 期 借 入 金	500,000
売 掛 金	90,235	未 払 金	100,440
未 収 入 金	371,740	未 払 費 用	135,970
短 期 貸 付 金	1,020,000	未 払 法 人 税 等	34,459
前 払 費 用	25,206	未 払 消 費 税 等	23,735
そ の 他	131,551	契 約 負 債	7,487
<b>固 定 資 産</b>	<b>2,690,779</b>	預 り 金	37,994
<b>有 形 固 定 資 産</b>	<b>289,460</b>	リ ー ス 債 務	17,100
建 物 及 び 構 築 物	267,186	そ の 他	10
工 具 、 器 具 及 び 備 品	1,067	<b>固 定 負 債</b>	<b>144,839</b>
リ ー ス 資 産	21,207	預 り 保 証 金	46,517
<b>無 形 固 定 資 産</b>	<b>117,124</b>	リ ー ス 債 務	6,596
ソ フ ト ウ ェ ア	102,953	繰 延 税 金 負 債	17,834
ソ フ ト ウ ェ ア 仮 勘 定	14,170	資 産 除 去 債 務	73,890
<b>投 資 そ の 他 の 資 産</b>	<b>2,284,194</b>	<b>負 債 合 計</b>	<b>1,002,037</b>
投 資 有 価 証 券	3,044	<b>純 資 産 の 部</b>	
関 係 会 社 株 式	2,164,018	<b>株 主 資 本</b>	<b>4,246,458</b>
差 入 敷 金 保 証 金	116,878	資 本 金	2,820,732
そ の 他	251	資 本 剰 余 金	851,334
		資 本 準 備 金	851,334
		利 益 剰 余 金	1,651,088
		そ の 他 利 益 剰 余 金	1,651,088
		繰 越 利 益 剰 余 金	1,651,088
		自 己 株 式	△1,076,696
		<b>純 資 産 合 計</b>	<b>4,246,458</b>
<b>資 産 合 計</b>	<b>5,248,496</b>	<b>負 債 ・ 純 資 産 合 計</b>	<b>5,248,496</b>

# 損 益 計 算 書

( 自 2025年 4 月 1 日 )  
( 至 2026年 3 月 31 日 )

(単位：千円)

科 目	金 額	金 額
売 上 高		426,752
売 上 原 価		28,076
売 上 総 利 益		398,675
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		466,023
営 業 損 失		67,347
営 業 外 収 益		
受 取 利 息	9,976	
有 価 証 券 売 却 益	37,800	
雑 収 入	6,652	54,429
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	5,108	
雑 損 失	2,633	7,741
経 常 損 失		20,659
特 別 利 益		
固 定 資 産 売 却 益	239,503	
投 資 有 価 証 券 売 却 益	42,221	281,725
税 引 前 当 期 純 利 益		261,065
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税	80,922	
法 人 税 等 調 整 額	15,067	95,990
当 期 純 利 益		165,074

独立監査人の監査報告書

2026年6月1日

株式会社レダックス  
取締役会 御中

海南監査法人  
東京事務所

指 定 社 員 公認会計士 仁戸田 学  
業 務 執 行 社 員  
指 定 社 員 公認会計士 溝口俊一  
業 務 執 行 社 員

監査意見

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、株式会社レダックスの2025年4月1日から2026年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社レダックス及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における執行役及び取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結計算書類に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結計算書類の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容及び連結計算書類又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

#### 連結計算書類に対する経営者及び監査委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結計算書類を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結計算書類を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における執行役及び取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 連結計算書類の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結計算書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結計算書類の注記事項が適切でない場合は、連結計算書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結計算書類の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結計算書類の表示、構成及び内容、並びに連結計算書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結計算書類に対する意見表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手するために、連結計算書類の監査を計画し実施する。監査人は、連結計算書類の監査に関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているそ

他の事項について報告を行う。 監査人は、監査委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

独立監査人の監査報告書

2026年6月1日

株式会社レダックス  
取締役会 御中

海南監査法人  
東京事務所

指 定 社 員 公認会計士 仁戸田 学  
業 務 執 行 社 員  
指 定 社 員 公認会計士 溝口俊一  
業 務 執 行 社 員

監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社レダックスの2025年4月1日から2026年3月31日までの第39期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における執行役及び取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の計算書類等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

計算書類等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と計算書類等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

#### 計算書類等に対する経営者及び監査委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における執行役及び取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
  - ・ 計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
  - ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
  - ・ 経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
  - ・ 計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- 監査人は、監査委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。
- 監査人は、監査委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

### 監査報告書

当監査委員会は、2025年4月1日から2026年3月31日までの第39期事業年度における取締役及び執行役の職務の執行について監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

#### 1. 監査の方法及びその内容

監査委員会は、会社法第416条第1項第1号ロ及びホに掲げる事項に関する取締役会決議の内容、ならびに当該決議に基づき整備されている内部統制システムの状況について取締役及び執行役、ならびに使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明し、かつ、監査委員会が定めた監査の方針、職務の分担等に従い、会社の内部監査部門等と連携の上、重要な会議に出席し、取締役及び執行役等からその職務の執行に関する事項の報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、会社の業務及び財産の状況を調査いたしました。子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。

また、事業報告に記載されている会社法施行規則第118条第5号イの留意した事項及び同号ロの判断及びその理由については、取締役会その他における審議の状況等を踏まえ、その内容について検討を加えました。

さらに、会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（2005年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）につき検討いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役及び執行役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会の決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容、ならびに取締役及び執行役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。
- ④ 事業報告に記載されている親会社等との取引について、当該取引をするに当たり当社の利益を害さないように留意した事項及び当該取引が当社の利益を害さないかどうかについての取締役会の判断及びその理由について、指摘すべき事項は認められません。

### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人海南監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人海南監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

なお、仮取締役進士肇は、上記監査委員会報告に記載された監査結果に係る承認決議を棄権し異議をとどめた。

(理由)

仮取締役選任決定が2026年5月14日付けであるところ、監査対象期間（第39期：2025年4月1日～2026年3月31日）において、仮取締役は全く監査に関与していない。監査委員会にて監査報告書の承認について協議及び決議をしたのが2026年6月1日であり、上記選任決定から当該監査委員会まで18日間しかなかったことから、監査委員として遡って過去1年分の監査関連資料を確認することは不可能であるため。

2026年6月1日

株式会社レダックス  
代表執行役社長 長倉 統己 殿

株式会社レダックス 監査委員会  
監査委員長 平野 忠邦 ㊟  
監査委員 内田 輝紀 ㊟  
監査委員 進士 肇 ㊟

(注1) 監査委員内田輝紀、進士肇は、会社法第2条第15号及び第400条第3項に規定する社外取締役であります。

(注2) 監査委員笠井学は、2026年5月25日逝去により退任いたしました。

以 上

# 株主総会参考書類

## 議案および参考事項

### 第1号議案 剰余金処分の件

当社は、株主の皆様に対する利益還元を重要な経営課題として認識しており、将来の事業展開と経営体質の強化のための内部留保を確保しつつ、安定的且つ適正な利益還元の実行を基本方針としております。

上記方針の下、当期末の配当につきましては、次のとおりといたしたく存じます。

#### 期末配当に関する事項

- (1) 配当財産の種類  
金銭
- (2) 株主に対する配当財産の割当てに関する事項及びその総額  
当社普通株式 1株につき金1円  
配当総額 20,728,796円
- (3) 剰余金の配当が効力を生じる日  
2026年6月25日

## 第2号議案 取締役7名選任の件

本総会終結の時をもって、取締役全員（6名）は任期満了となります。つきましては、指名委員会の決定に基づき、社外取締役2名を含む取締役7名の選任をお願いするものであります。

取締役候補者は次のとおりであります。

候補者 番号	氏 名 (生年月日)	略歴、当社における地位、担当 および重要な兼職の状況	所有する 当社の株式数
1	か ばた まさ ゆき 加 畑 雅 之 (1953年8月8日生)	1979年10月 セントラル通商株式会社（現：株式会社 レダグループホールディングス） 設立 代表取締役社長 2011年6月 株式会社創広代表取締役会長 2012年8月 K A Bホールディングス合同会社（現： 株式会社レダグループホールディング ス）代表社員 " 11月 当社取締役兼執行役会長 " 株式会社レダ（現：株式会社レダグルー プホールディングス）取締役会長 " 株式会社創広取締役会長（現任） 2014年4月 株式会社カーチス取締役会長（現任） " 12月 株式会社アガスタ取締役会長（現任） 2015年7月 株式会社レダコーポレーション（現：株 式会社レダ）取締役会長 2018年6月 株式会社レダグループホールディングス 代表取締役会長兼社長（現任） 2020年6月 株式会社レダ代表取締役会長兼社長 （現任） 2023年6月 当社取締役兼代表執行役会長（現任） 2023年10月 株式会社カーチスロジテック取締役（現 任） 2024年10月 新興自動車株式会社取締役会長（現任） 2026年1月 株式会社Freedom Japan取締役（現任）  [当社における担当・委員] 代表執行役会長 報酬委員 指名委員	834,200株

候補者 番号	氏 名 (生年月日)	略歴、当社における地位、担当 および重要な兼職の状況	所有する 当社の株式数
2	なが くら のぶ み 長 倉 統 己 (1967年12月15日)	1990年4月 国際証券株式会社（現：三菱UFJモル ガン・スタンレー証券株式会社） 入社 " 12月 株式会社東邦フーズサービス 設立 代表取締役社長 2003年12月 オレガ株式会社 代表取締役社長 2008年6月 株式会社コネクテックテクノロジーズ（現： 株式会社ジー・スリーホールディング ス）入社 2010年11月 同社取締役 2012年11月 同社代表取締役社長 2020年2月 当社入社 企画管理本部長 2020年6月 株式会社カーチス取締役（現任） " 当社取締役兼執行役 2021年6月 株式会社タカトク取締役（現任） " 株式会社アガスタ取締役 " 当社取締役兼常務執行役 2021年11月 株式会社アガスタ代表取締役常務 " 当社取締役兼代表執行役常務 2022年2月 株式会社アガスタ代表取締役社長 " 当社取締役兼代表執行役社長（現任） 2023年10月 株式会社カーチスロジテック代表取締役 社長 2023年11月 株式会社レダグループホールディングス 取締役（現任） 2024年10月 新興自動車株式会社代表取締役社長 2025年6月 新興自動車株式会社取締役（現任） 2026年1月 株式会社カーチスロジテック監査役（現 任） " 株式会社Freedom Japan監査役（現任） 〔当社における担当・委員〕 代表執行役社長	22,000株

候補者 番号	氏 名 (生年月日)	略歴、当社における地位、担当 および重要な兼職の状況	所有する 当社の株式数
3	わた なべ ゆう た 渡 邊 雄 太 (1973年5月17日)	1997年4月 株式会社第一勧業銀行（現みずほ銀行） 入行 2008年3月 アセット・インベスターズ株式会社（マ ーチャント・バンカーズ株式会社）入社 2009年6月 同社執行役員 2011年7月 株式会社東京スター銀行入行 2020年4月 同行法人金融部門法人営業本部長 2021年9月 株式会社オクトフォースマネジメント常 務執行役員 2022年3月 同社取締役副社長COO兼CIO 2024年11月 当社入社 金融投資事業部長 " 株式会社カーチスロジテック常務取締役 2025年4月 当社経営企画室長兼営業戦略本部長兼金 融投資事業部長（現任） " 株式会社カーチス営業統括本部長 2025年6月 株式会社カーチス代表取締役社長（現 任） " 株式会社アガスタ取締役 " 株式会社タカトク取締役（現任） " 株式会社カーチスロジテック専務取締役 " 当社取締役兼専務執行役（現任） 2026年1月 株式会社カーチスロジテック取締役（現 任） " 株式会社Freedom Japan代表取締役 2026年4月 株式会社アガスタ代表取締役社長（現 任） 2026年5月 株式会社Freedom Japan取締役（現任）	—
4	[新任] カワ ムラ タケ オ 河 村 建 夫 (1942年11月10日生)	1967年4月 西部石油株式会社入社 1976年8月 山口県議会議員 1990年2月 衆議院議員 2003年9月 文部科学大臣（小泉内閣） 2008年9月 内閣官房長官（麻生内閣） 2025年10月 株式会社チェックメイト・ジャパン会長 （現任）	—

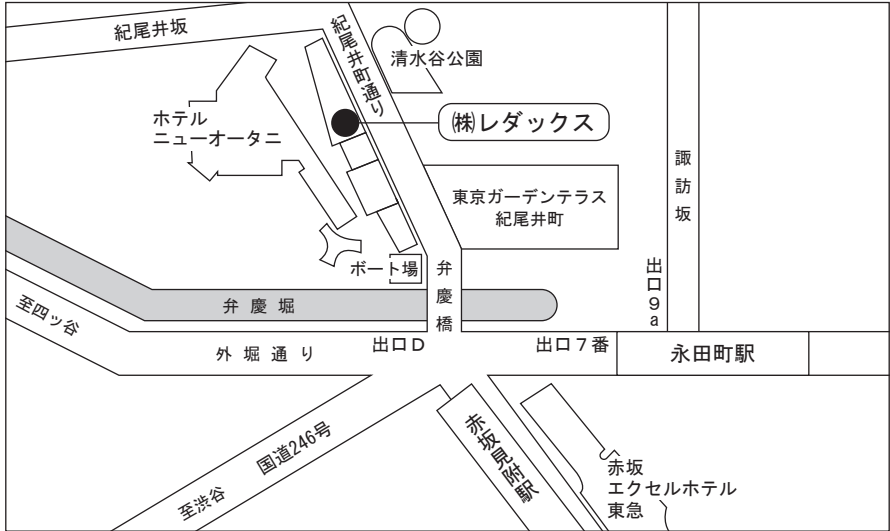
候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、当社における地位、担当 及び重要な兼職の状況	所有する 当社の株式数
5	ひらのただくに 平野 忠邦 (1942年8月20日生)	1965年4月 運輸省（現：国土交通省）入省 1994年6月 海上保安庁次長 " 社団法人日本旅行業協会（現：一般社団法人日本旅行業協会）理事長 1996年7月 日本貨物航空株式会社専務取締役 2003年6月 関西国際空港株式会社代表取締役副社長 2009年6月 同社顧問 2013年12月 当社顧問 2014年6月 当社取締役兼執行役員副会長 " 株式会社カーチス監査役 2016年6月 当社取締役（現任） 〔当社における担当・委員〕 監査委員	7,500株
6	うちだてるき 内田 輝紀 (1941年2月28日生)	1964年4月 大蔵省（現：財務省）入省 1990年7月 関東財務局東京証券取引所監理官兼大臣官房審議官（証券局担当） 1992年6月 大蔵省印刷局長 1993年6月 電源開発株式会社常務取締役 2001年4月 株式会社大阪証券取引所副社長 2002年6月 株式会社武富士取締役副会長 2007年2月 弁護士登録 " 9月 渥美綜合法律事務所（現：渥美坂井法律事務所・外国法共同事業）入所（現任） 2012年11月 当社社外取締役（現任） 2013年6月 株式会社クロス・マーケティンググループ監査役就任 2017年3月 同社社外取締役（監査等委員）就任（現任） 〔当社における担当・委員〕 報酬委員 指名委員 監査委員	—
7	[新任] タムラ マモル 田村 守 (1967年12月26日生)	1991年6月 株式会社太陽神戸三井銀行（現三井住友銀行）入行 1997年6月 同行ニューヨーク支店 ヴァイスプレジデント 2000年8月 メリルリンチ証券（現Bank of America証券）法人営業部ディレクター 2006年6月 株式会社FJネクスト（現株式会社FJネクストホールディングス）取締役経営企画室長 2009年11月 成城キャピタルパートナーズ株式会社設立代表取締役（現任） 2015年5月 株式会社マックハウス（現ジーエット株式会社）監査役 2023年8月 株式会社カクヤス監査役（現任） 2026年4月 株式会社アガスタ監査役（現任）	—

- (注) 1. 取締役候補者加雅雅之氏は、同氏及びその近親者で、株式会社レダグループホールディングスの議決権の100%を保有しております。また、当社の親会社であります同社の業務執行者であり、過去10年間に於いても同社の業務執行者でありました。なお、同氏の同社における現在及び過去10年間の地位及び担当は、上記「略歴、当社における地位、担当及び重要な兼職の状況」欄に記載のとおりであります。
2. 取締役候補者渡邊雄太氏は、株式会社カーチス代表取締役社長及び株式会社アガスタ代表取締役社長であり、当社は、株式会社カーチス及び株式会社アガスタとの間で経営指導に関する取引関係があります。上記以外に各取締役候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。
3. 社外取締役候補者に関する特記事項は、以下のとおりであります。
- (1) 取締役候補者内田輝紀、田村学の両氏は、会社法施行規則第2条第3項第7号に定める社外取締役候補者であります。
- (2) 社外取締役候補者の選任理由及び期待される役割の概要について
- ① 内田輝紀氏は、大蔵省（現：財務省）及び株式会社大阪証券取引所などにおいて培われた金融・証券その他経済全般にわたる高い見識を有しており、また、弁護士として高度な専門性を活かして金融・証券取引関係業務、コンプライアンスを取扱業務として活躍されており、当社の経営全般に助力をいただくとともに、経営に対する監視・監督機能の強化のため、社外取締役としての適切な役割を果たしていただけるものと判断し、引き続き社外取締役として選任をお願いするものであります。なお、同氏の当社社外取締役在任期間は本総会終結の時をもって、13年7ヶ月となります。
- ② 田村守氏は、長年にわたる金融・資本市場分野での豊富な実務経験を有しております。また、取締役や監査役を歴任し、企業統治・内部統制に関する深い知見を持っております。これらの幅広い金融・経営・ガバナンスに関する専門知識と実績が、当社の経営の透明性・健全性の確保および取締役会の意思決定の質の向上に資するものと判断し、社外取締役として選任するものであります。
- (3) 社外取締役との責任限定契約について
- 内田輝紀氏は、現在当社の社外取締役であり、当社定款および会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項に定める損害賠償責任を限定する契約を締結しており、本議案が承認可決された場合は、当該責任限定契約を継続する予定であります。また、田村守氏は、本議案が承認可決された場合は、当該責任限定契約を締結する予定であります。その概要は、取締役（業務執行取締役等であるものを除く）の損害賠償責任の限度額を、会社法第425条第1項第1号および第2号に定める額の合計額とするものです。
4. 当社は内田輝紀氏を東京証券取引所有価証券上場規程第436条の2に定める独立役員として届け出ております。再任された場合は引き続き独立役員とする予定であります。また、田村守氏が取締役を選任された場合は、東京証券取引所有価証券上場規程第436条の2に定める独立役員として届ける予定であります。
5. 当社は、取締役全員を被保険者として、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を締結しており、各取締役候補者が取締役に選任され就任した場合には、各取締役候補者は当該保険契約の被保険者となります。また、当該保険契約は1年毎に契約更新しております。なお、当該保険契約の概要は、本招集ご通知「4. 会社役員に関する事項」「(3)役員等賠償責任保険契約の内容の概要等」に記載のとおりであります。

以 上

# 定時株主総会会場案内図

会場 東京都千代田区紀尾井町4番1号  
新紀尾井町ビル2F 当社本社会議室  
電話 03-3239-3185



## 〔交通のご案内〕

東京メトロ丸ノ内線・銀座線「赤坂見附駅」

出口D（紀尾井町口）から徒歩4分

東京メトロ半蔵門線・有楽町線・南北線「永田町駅」

出口7番から徒歩4分

出口9aから徒歩8分